

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
E132M004	家庭科授業研究(中等) (Studies in Teaching of Home Making (Junior High School))																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	3	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 財津 庸子  E-mail yzaitsu@oita-u.ac.jp 内線 7601											
授業の概要	中学校・高等学校家庭科の授業づくりについて、家庭科授業研究(中等) 及び実習のふりかえりをふまえ、さらに実践力を高めるために、教材研究の幅を広げるため、とは違うテーマで授業実践研究を行う。教材開発、評価、小中高の系統性などに焦点化し、具体的に検討する。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	家庭科授業研究 をふまえ、中学校・高等学校家庭科の授業づくりを構想する。																
目標2	実習のふりかえりをふまえ、実践分析等から指導案や教材の改善を検討する。																
目標3	開発した教材による模擬授業を行い、スキルアップする。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	家庭科授業研究(中等) および教育実習の成果と課題の確認																
2	小中高の家庭科の内容の関連・系統性および評価等についての確認																
3	家族・家庭生活に関する内容に関する実践例の分析																
4	自分の成長・子どもの発達に関する実践例の分析																
5	衣生活に関する内容に関する実践例の分析																
6	食生活に関する内容に関する実践例の分析																
7	住生活に関する内容の実践例の分析																
8	消費生活に関する内容の実践例の分析																
9	個人テーマに基づく教材開発1																
10	個人テーマに基づく教材開発2																
11	模擬授業1																
12	模擬授業2(可能であれば協力校での授業実践)																
13	模擬授業の検証																
14	教材および指導案の改善案作成																
15	全体のふりかえりとまとめ																
ラック ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認	実践例の分析、意見交換・相互評価、教材開発・作成、指導案作成、模擬授業														工 夫 そ の 他 の	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	中学校・高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の予習(15h)															
	事後学修	中学校・高等学校の家庭科教科書・学習指導要領解説家庭編、テキストの講義該当箇所の復習(15h) 教材開発・作成、指導案作成、模擬授業の練習(10h)															
教科書	文科省 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 中学校家庭科教科書 文科省 高等学校学習指導要領解説 家庭編 高等学校家庭科教科書 中学校家庭科教科書(開隆堂)																
参考書	中西雪夫・小林久美・貴志倫子共編「小中学校家庭科の授業をつくる～5年間を見通すための理論・実践・基礎知識」学術図書出版(2023)、お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著「作る手が子どもたちを輝かす アクティブラーニングが育てるこれからの家庭科」地域教材社(2017)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	レポート等提出物	60%															
	発表および模擬授業等	40%															
注意事項																	
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。実習をともなう教材研究の場合、自己負担が生じることがある。																
リンク																	
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	中学校・高等学校の家庭科教員
実務経験を いかした教 育内容	実際の教育現場における指導経験や専門的知識・技能が、学校教育現場の理解に基づく指導のあり方や指導案等に活かす。